

亡くなった学生の家族からのメッセージ

神戸大メディア研では、阪神淡路大震災で亡くなった学生のご遺族に、被災の状況や現在の思い、後輩学生へのメッセージの取材を進めています。インタビューは順次ブログ (https://blog.goo.ne.jp/kobe_u_media) にアップしていきます。(→QRコードでもアクセスできます)



灘区友田町の盛華園アパート2階で亡くなった
高見秀樹さん(当時・済3年、鳥取県立米子東高出身)の父・俊雄さん、母・初子さん



母：今でも秀樹の話をするすると涙が出るんですけどね。(中略)もう幸せになるというようなことことを考えずに、精いっぱいその日その日を生きていけばいいと思って頑張ってるんですけども。

父：せっかく正門の所に慰霊碑を作ってるわけだけん、その建てとる意味合いというものを教えるっていう事が、大震災の後から生まれた人たちに対する、学校としてのつとめだかしらんなあ。

東灘区住吉南町のサニーハイム2階で亡くなった
高橋幹弥さん(当時・理2年、大阪府立高津高出身)の父・昭憲さん

(隣の銭湯の)煉瓦造りの煙突が崩れて、ちょうどうちの子が住んどる部屋だけがぶすんと切れるように…。煙突が折れへんかったら助かってたわけですね。(中略)うちの子が亡くなったんと隣の子が助かったるとの差がね、差があるわけよ。



灘区六甲町の西尾荘1階で亡くなった
坂本竜一さん(当時・工3年、兵庫県立八鹿高出身)の父・秀夫さん



生きたまま焼かれたんやなあ、はっきり言うたら。だから今でこそ俺もそなん言えるけど、なかなかやっぱ、言葉にならんわ。(中略)火さえ来なかったら助かっと思ったわな。

(中略)まあここの学校でこんだけ亡くなった、こんだけ若い人が亡くなったんやってことだけは知ってほしいなど、それは思いますね。